



先日の七夕。

昨年と同じホタルを眺めに長岡市塚野山（旧越路町）に出掛けた。

カエルの合唱を聴きながら農道を歩いて雑木林に入っていく。この地域でホタルが見られるのは6月下旬から7月上旬にかけて。

幸運にも天気にも恵まれて、ホタルの光と一緒に星空を楽しむことができた。

私たちが7月7日に恒例のように祝う七夕は梅雨真っ盛りの時分で、星空に恵まれるのは結構難しい。

短冊に願い事を書いても雨に降られることが多い。

約140年前、明治の初めに日本のカレンダーが「旧暦」から「新暦」に切り替わったときに、ひと月分くらい暦（こよみ）がずれてしまったことが事の発端で、本来的な七夕は現在で言うと8月上旬ころになる。

梅雨が明けて夏真っ盛りの時分でここ長岡でも晴天率が高く、織姫と彦星の話も生彩を放つはずである。

この織姫と彦星。

日本では、『結婚したら楽しすぎて本来の仕事（機織りと牛飼い）を怠けてしまい、織姫の父親が激怒して引き離されて、年に一度だけは天の川を挟んで逢うことを許してもらった』というのが定番のシナリオだ。

結構厳しい。

短冊には「勤勉」と書こう

ホタルの寿命は1年。7月から4月までの幼虫期は水中で過ごし、4～5月頃からサナギになり2カ月弱土中で過ごす。

成虫の寿命は1～2週間程度だ。

地上で過ごす僅かな時間の中でパートナーを探す。

山里で人知れず繰り返される営みを思うと懐中電灯をつけて歩くのも申し訳ない。

彼らにとっては光が言葉だから、邪魔してしまいそうで。

ホタルを詠んだ歌は多い。

『音もせで 思いに燃ゆる蛍こそ 鳴く虫よりも あわれなりけり』／源重之『後拾遺集』

「音も立てずに思いの火を燃やして飛ぶホタル。鳴く虫よりもあわれ深いのだ」と平安時代の歌人さん。

旧暦では7月を文月（ふみつき）と呼ぶ。

七夕の短冊に詩歌や文字（願い事）を書いて飾ったことに由来するというのが定説で、文をしたためたり人を想ったりすることにゆかりがあるようだ。

古く中国では7月7日に書物を夜風に曝す（虫食い防止のため）風習があったようでそちらの影響もあるのかもしれない。

今年も折り返し。出しそびれの手紙や伝えそびれの言葉はないか、考えたい月である。

---

#### ■塚山活性化センター（昔ばなしとほたるの館）

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/miru/siryou/tukayama.html>

#### ■交通アクセス

JR 塚山駅より徒歩 15 分、関越道長岡南越路スマート I C より 20 分

長岡便利地図 <https://www2.wagmap.jp/nagaoka/map/map.asp>

GoogleMap <https://goo.gl/maps/CKMjGP1er6M2>